RION

Environmental Report 2010

リオン環境レポート

地球環境の保全は、人類共通の重要課題である。
この“かけがえのない地球”を健全に維持することは、
我々一人ひとりの責務である。
当社は、すべての企業活動を通して、常に環境保全に配慮し、
人に、社会に、地球に、優しい製品及び
サービスを提供することにより、
国民の健康で文化的な生活の確保に寄与すると共に、
人類の福祉に貢献する。

目 次

トップコミットメント …… 3
環境方針 …… 4
環境に対する姿勢 …… 5
　環境管理活動におけるこれまでの経過 …… 5
　推進体制 …… 6
　事業活動と環境への影響 …… 6
　環境会計 …… 7
2009年度の環境活動 …… 8
　活動実績（2009年度） …… 8
　電力消費量の推移 …… 9
　特定化学物質の管理状況 …… 9
製品への環境配慮 …… 10
　リオネット補聴器・関連機器 …… 11
　　ジョイトーンプラス/リオネットウィズ
　医用検査機器 …… 12
　　OAEスクリーナーER-60
　音響・振動計測器 …… 13
　　精密騒音計NL-52 /普通騒音計NL-42
　微粒子計測器 …… 14
　　液中パーティクルセンサ KS-18F
社会に対する取り組み …… 15
　CS活動 …… 15
　安全衛生の活動 …… 16
インタビュー …… 17
　プロボディーボーダーYUMIEさん×RION
会社概要 …… 19

対象期間：2009年度
（2009年4月1日～2010 年3月31日）
当該年度以外の内容も一部掲載しています。

リオン株式会社

編　集：環境管理委員会
連絡先：管理支援本部 総務部
〒185-8533 東京都国分寺市東元町 3-20-41
TEL: 042-359-7855　FAX: 042-359-7440
http://www.rion.co.jp/

TOP COMMITMENT
トップコミットメント

2010 年 12 月

代表取締役社長 井上 清恒

「リオン環境レポート2010」を発行するにあたり、皆さまの日ごろのご支援とご愛顧に対し、改めて心よりお礼申し上げます。

近年世界の企業は地球温暖化防止をはじめ、地球環境に対する問題への取り組みを強く求められ、日本においてもその気運が高まって来ております。

かかる状況下、当社は2010年度の環境方針で二酸化炭素排出量の削減を掲げ、2020年までに二酸化炭素排出量を1990年比25%削減することを目標とし、全社一丸となって環境管理活動を進めております。

また、2010年4月から組織体制を従来の機能別組織から事業部制の新組織に変更いたしましたが、これは、各事業を一つの戦略分野として捉えることができる責任者を配置し、その責任と権限において意思決定の迅速化を図ることを大きな狙いとしております。この事業部制の下での環境マネジメントシステムは、各事業部内において、全従業員が各目標に対して同じ方向性を持ちつつ、適正に迅速化された環境管理活動が機能できるシステムを目指すものであります。

さらに、製品開発面においても、安全で環境に対する影響に配慮し、且つ有害化学物質を含まない、二酸化炭素排出量を削減した製品をお客さまに提供してまいります。

当社はCSR(企業の社会的責任)の一環である環境管理活動を通して、当社で働く一人ひとりが地球環境保全への高い関心を持ち、人類の健康に配慮した事業の継続的発展に取り組んでまいる所存でございます。

引き続き皆さまからの温かいご支援とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

環境方針

当社グループの目指す姿は、「社会の発展と快適な生活の実現及び地球環境問題の改善に貢献し、社会から常に信頼を得て発展し続ける企業グループ」となることであり、そのためにも環境管理活動は、経営の最重要課題の一つとして位置づけられるものである。

1. 環境負荷の低減

環境負荷の少ない製品の開発を推進し、部品調達から生産、販売、サービス、廃棄に至る全ての事業活動において、環境影響を適切に認識、評価し、社内外の環境負荷を低減する。

2. 環境管理活動の充実・強化

定量化された環境目的、環境目標を制定し、施策、責任、期限を明確にした実施計画を策定し実行する。また、これらを適宜見直し、環境管理活動を継続的に改善する。

3. 法規制の順守

環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守する。

4. 地球温暖化の防止

廃棄物の再利用（reuse）、廃棄物排出の抑制（reduce）、廃棄物の再資源化（recycle）に取り組み、資源を有効に利用し、CO_2排出量を削減する。

5. 地域の環境保全

地域の環境活動への参加、近隣清掃、構内樹木の剪定等、緑の資産を良好な状態で維持し、地域社会を含めた環境保全に尽くす。

環境方針は当社で働く全ての人々に周知徹底すると共に、グループ会社及び取引先、外部利害関係者に対しても公開し、当社が行う環境管理活動に対する協力をお願いする。

環境に対する姿勢

Posture to environment

環境管理活動におけるこれまでの経過

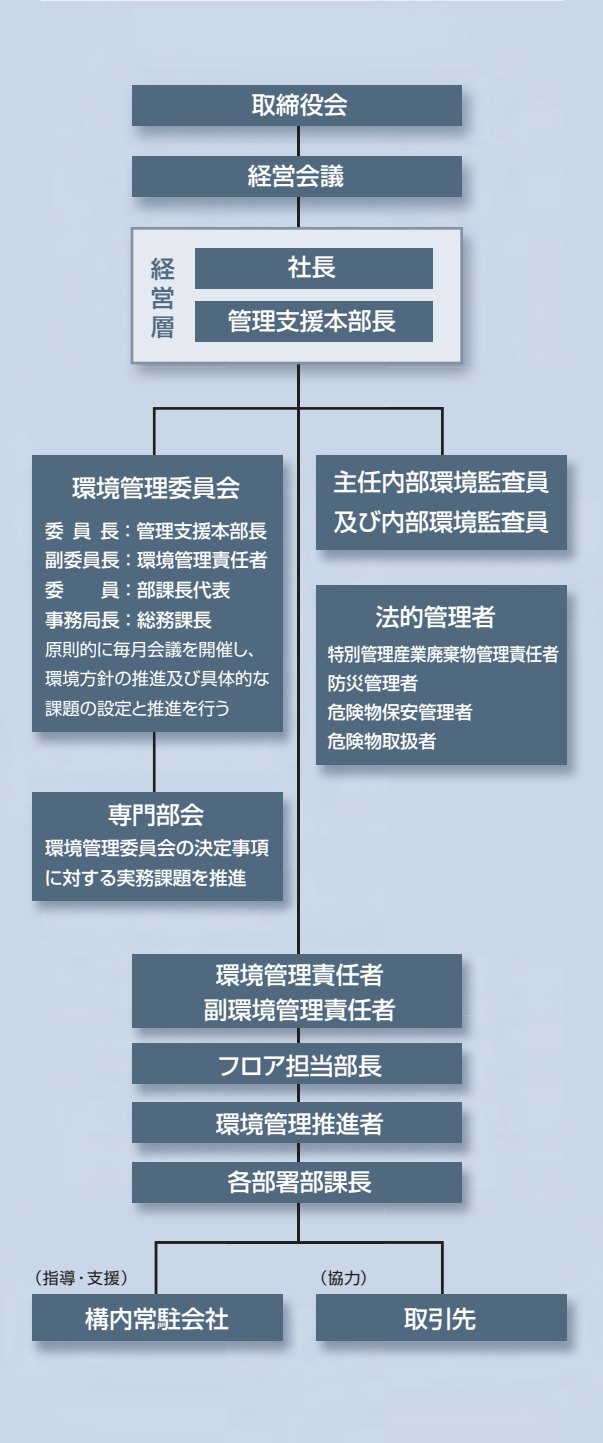
1999年　7月	ISO14001の認証取得(JQA-EM0488) ※翌年より、内部環境監査の実施と外部環境監査(定期審査)を継続受審
2001年　8月	「環境報告書」初版を発行
2002年　5月	ISO14001(JQA-EM0488)の更新審査を受審
2002年　9月	ホームページ上に環境報告書を開示
2004年　12月	外部審査機関を日本品質機構(JQA)から テュフズードマネジメントサービスGmbH (TÜV)に移行
2005年　5月	外部審査機関TÜVによる更新審査を受審
2005年　5月	ISO14001:2004対応への全面見直し開始
2006年　5月	グリーン調達システムの構築を開始
2006年　6月	外部審査機関TÜVによるISO14001: 2004移行審査を受審、認証取得
2006年　6月	ISO14001: 2004適用範囲の見直しを開始
2006年　10月	グリーン調達調査を開始
2007年　6月	外部審査機関TÜVによるISO14001:2004の適用範囲を国内全事業所に 拡大し更新審査を受審、認証取得
2009年　7月	グリーン製品(振動分析計VA-12)の販売開始
2010年　8月	外部審査機関TÜVによる定期審査を受審

環境マネジメントへの取り組み

リオンでは、環境マネジメントへの取り組みとして、国際規格であるISO14001の2004年版の認証をテュフズードマネジメントサービスGmbHより取得しています。

推進体制

環境活動を全社で推進するため、1998年に環境管理委員会を設置して以来、現在まで取り組み体制の強化を進めてきました。環境活動の統括機関である環境管理委員会を中心に、専門部会を設置しています。この体制のもと、全社を挙げて環境活動に取り組んでいます。



事業活動と環境への影響

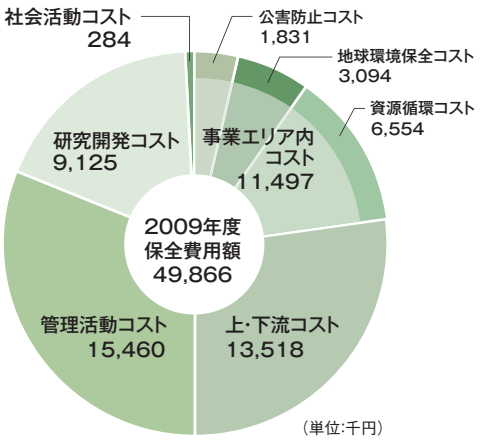
様々な資源を投入して部品や製品を製造し、エネルギーや水等の地球資源を活用して事業活動を行っています。
それぞれの工程における環境負荷低減への積極的な取り組みを行うように努めています。

環境会計

環境会計の手法は、環境省の環境会計ガイドラインに準拠した環境会計を2003年度から実施し、環境保全にかかるコストとその効果を把握するための取り組みを進めています。環境会計の導入によって、環境保全活動を活発化し、継続的な環境対策を行い、その効果を向上させること、さらに情報の開示により、環境保全活動の透明性を高め、環境に対する姿勢を明確にすることを目指しています。

対象期間：2009年4月1日～2010年3月31日

集計範囲 本社工場 参考：「環境会計ガイドライン 2005 年度版」



1. 環境保全コスト

（単位:千円）

分類		主な取り組みの内容	設備投資額		保全費用額	
			2008年度	2009年度	2008年度	2009年度
事業エリア内コスト			0	0	11,454	11,497
	公害防止コスト	大気、水質、騒音等	(0)	(0)	(1,984)	(1,831)
	地球環境保全コスト	温暖化防止、オゾン層保護等	(0)	(0)	(3,728)	(3,094)
	資源循環コスト	資源の有効活用、廃棄物の減量化等	(0)	(0)	(5,742)	(6,554)
上･下流コスト		グリーン調達、リサイクル等	0	0	13,715	13,518
管理活動コスト		環境教育等	0	0	17,782	15,460
研究開発コスト		環境調和型製品開発等	0	0	9,125	9,125
社会活動コスト		緑化、情報開示等	0	0	284	284
環境損傷対応コスト		土壌汚染修復等	0	0	0	0
		合計	0	0	52,360	49,866

2. 環境保全効果

分類	指標(単位)	2008年度	2009年度	前年度比増減
事業活動に投入する資源に関する効果	電力使用量(Mwh)	2,996	2,746	△250
	都市ガス使用量(m^3)	54,957	47,204	△7,753
	上水使用量	27,726	22,323	△5,403
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	電力使用量($t\text{-}CO_2$)	1,108	931	△117
	都市ガス使用量($t\text{-}CO_2$)	120	103.4	△17

($t\text{-}CO_2$の換算において、電力は電気事業連合会公表の換算係数、都市ガスは環境省「二酸化炭素排出量調査報告書」の換算係数を使用)

3. 環境保全対策に伴う経済効果　ー実質的効果ー

（単位:千円）

内容		2008年度	2009年度	前年度比	経済効果
省エネルギーによるエネルギー費の節減	電気使用料	53,589	44,790	△8,799	13,869
	ガス使用料	4,746	3,642	△1,104	
	水道使用料	19,502	15,536	△3,966	
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費	廃棄物処理費	1,311	1,958	647	△647
				合計	13,222

(注)実質的効果のみで、みなし効果は含んでいない。

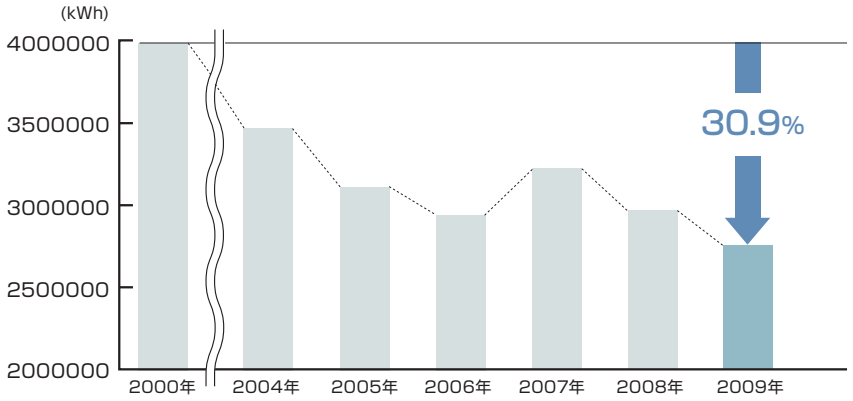
2009年度の環境活動

活動実績（2009年度）

環境項目		環境目標	実績
エネルギー	省エネルギー	全電力消費量を2008年度比 7.0%以上削減する	8%減
		フロアにおける電力消費量を2008年度比 2.0%以上削減する	11%減
資源	省資源	文房具のグリーン購入率を 65%とする(プリンタートナーを除く)	グリーン購入率 100%
		2008年度のOA用紙使用量の実績値以下を維持する	3%減
		再生紙を使用した印刷物の比率を 98%以上とする	再生紙比率 99.6%
		展示会の装飾品、販売促進用品等は、環境を配慮したものとする (主として啓蒙活動)	繰返し使用可能な展示ブースを採用
廃棄物	廃棄物の再資源化、排出の抑制	再資源化(リサイクル)を促進するための分別廃棄を徹底する	完全分別(11種)
	再生化学物質	再生対象化学物質について、廃液の再利用(リユース)を進め、 2009年度の廃棄量を 30kg以下とする	廃棄量 10.2kg
		有機溶剤の使用量の削減を目指すため、製造工程の見直し及び 選定を行い、洗浄の非有機溶剤化を推進する	非有機溶剤の洗浄液を選定した
環境適合製品	製品の環境配慮	2009年度に開発する全ての新製品(DR3製品)において、グリーン設計 (有害化学物質非含有)を推進し、その結果をDR3で審査する	全機種にて推進中
		当社の全製品に使用している部品・材料について、リオングリーン調達 ガイドラインに従ったグリーン調達調査の回答率を 95%以上にする	グリーン調達を実施中
景観	緑の保全	樹木の定期的剪定を実施する	延べ42人にて実施
		本社工場周辺の清掃を実施する	延べ216人にて実施
環境汚染	騒音・振動	騒音規制基準 60dB以下を順守する　(目標基準 57dB以下) 振動規制基準 65dB以下を順守する　(目標基準 60dB以下)	実測定値 45dB 実測定値 23dB
	管理	駐車場にアイドリングストップ運動の看板を設置・管理し、 啓蒙活動を実施する	構内駐車場に掲示板を5カ所設置・管理
		特定管理化学物質の使用量を正確に管理する	各フロア、化学物質管理者を設け管理

電力消費量の推移

省エネルギー	電力
環境目的	2009年度末までに、全社電力消費量を2000年度比で 27%以上削減する
環境目標	全電力消費量を2008年度比 7.0%以上削減する
実績	電力：　2009年度　2,745千kWh 2008年度　2,995千kWh比 8.3%減（達成）



電力消費量の推移

特定化学物質の管理状況

化学物質専門部会を常設し、有機溶剤及び有鉛はんだに含まれる鉛の使用量の把握と、有機溶剤（アセトン、イソプロピルアルコール、メチルアルコール、トルエン、ラッカーシンナー、ファイントップS005を対象）の再生使用による購入·廃棄量の削減、危険物倉庫の管理、化学物質廃棄管理及び安全な使用方法の啓蒙を行っています。

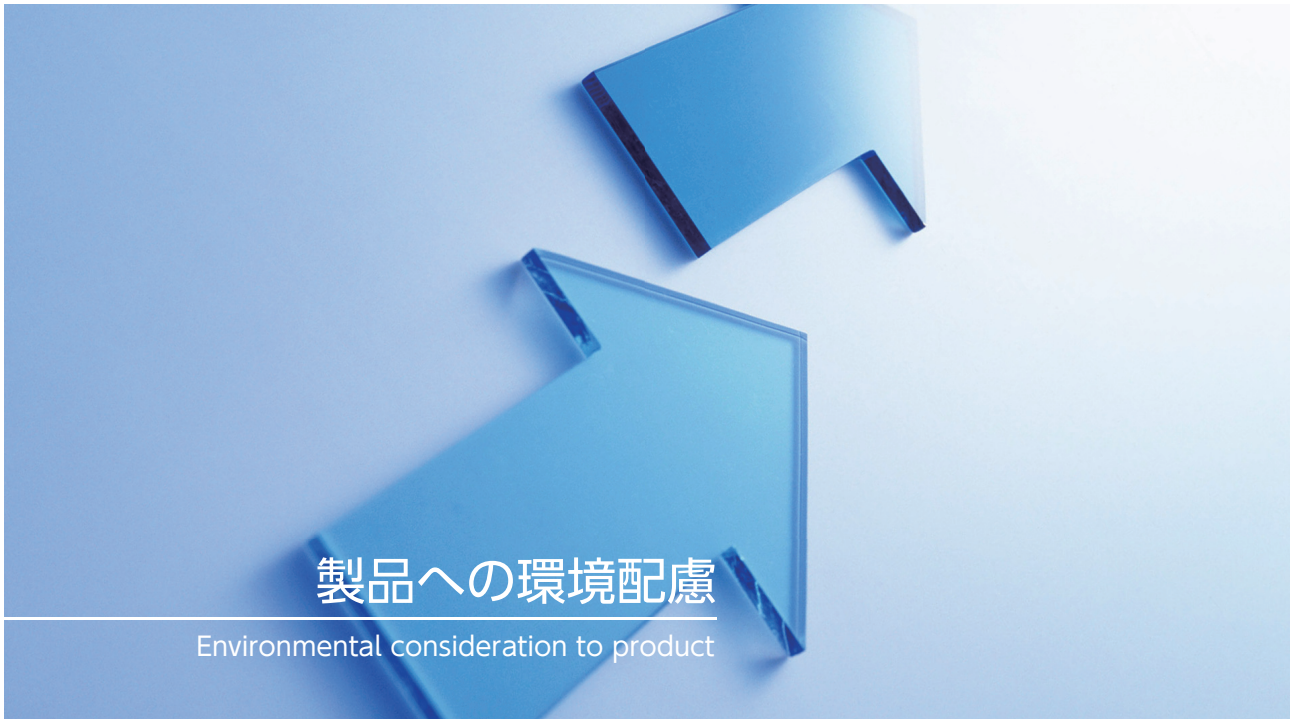
●2003年に有機溶剤の再生装置を購入後、当社をはじめリオングループで使用した有機溶剤も回収し、その再生活動を進めています。2009年度の実績は342.1kgを回収し、332kg再生（再生率97%）となりました。
このように地球汚染を最小限にとどめるほか、有機溶剤から水溶性溶剤へ転換の使用可否評価を積極的に進めています。やむを得ず再生溶剤を使用した場合には、ガスクロマトグラフによる分析及び品質確認（維持）を行い、製品に影響を与えないよう配慮しています。

●2009年度の当社の主要有機溶剤の使用量は以下の通りとなり、合計160kgとなりました。これは再生装置購入前の2002年度実績448.6kgに対し65.7%の削減となります。

アセトン ……	25.2kg
イソプロピルアルコール ……	62.8kg
メチルアルコール ……	30.6kg
トルエン ……	38.5kg
ラッカーシンナー（トルエン換算）……	3.2kg

現実的には大気中への放散比率が約8割と高くなっており、再生利用による減量活動に限界の兆しがあります。今後は、製造工程、作業工程の見直し、改善が必須であると考えています。

●はんだ付け作業は鉛フリーはんだへの転換を図っており、鉛換算で2007年度29.3kgに比べ36.5%削減の14.3kgの有鉛はんだの使用となりました。



製品への環境配慮

Environmental consideration to product

製品案内

リオネット補聴器・関連機器
HEARING INSTRUMENT

デジタル補聴器 / オーダーメイド補聴器 / 耳かけ型補聴器 / ポケット型補聴器 / 聴能設備機器 / 生活関連機器

医用検査機器
MEDICAL EQUIPMENT

オージオメータ / インピーダンスオージオメータ / 電子カルテ関連システム / 誘発反応検査装置 /
耳音響放射検査装置 / 眼振計 / 耳管機能検査装置 / 電気味覚計 / 振動感覚計 / 聴力検査室

音響・振動計測器
SOUND & VIBRATION METER

騒音計 / 振動計 / 設備診断機器 / 周波数分析器 / 記録計 / 地震計

微粒子計測器
PARTICLE COUNTER

気中パーティクルカウンタ / 液中パーティクルカウンタ / ガス用パーティクルカウンタ / 多点モニタリングシステム

ECO GREEN

リオングリーン製品ロゴマーク

リオングリーン製品ロゴマーク

「みどりの葉」は自然環境を表現します。その自然環境を守るように囲んだ「みどりの輪」は、有害物質削減を続けてゆく活動の「輪」であり、有害物質「ゼロ」への取り組みを表現しています。
当社基準である「グリーン調達ガイドライン」に則り、有害化学物質を含有しない製品にリオングリーン製品ロゴマークを表示しています。

リオネット補聴器・関連機器 HEARING INSTRUMENT

補聴器の主要部品として2006年度までにマイクロホン・イヤホンの鉛フリー化、2006年度にハイブリッドICの鉛フリー化を行いました。2007年度には医療機器としては規制対象外となっているRoHS指令への適応、当社のグリーン調達ガイドラインに基づき、有害化学物質を使用せずに製品を生産するグリーン製品としての設計も行いました。

2008年度は、新規設計したリオン販売製品全てにおいてグリーン製品設計を行い、生産工程においてもグリーン化を実現した製品の販売をしました。
今後においては、新規設計する製品はグリーン化を実現し、既存製品についても順次グリーン化に取り組みます。

JOYTON+ ジョイトーンプラス

RIONETWITH リオネットウィズ

●ジョイトーンプラス

2010年8月に、従来お手ごろ価格で好評を博しているデジタル補聴器「ジョイトーン」シリーズにおいて、価格を据え置き※ながら好評の「ノイズリダクション」「ハウリングキャンセラー」の2つの機能を追加し、コストパフォーマンスを大幅に向上したオーダーメイド補聴器（CIC、カナールエイド）及び耳かけ型補聴器を発売しました。
これらに使用している部品は、環境に対する配慮として、設計・生産工程にて完全グリーン化を実現しています。

※従来の「ジョイトーン」と同じ価格は、耳あな型デジタルオーダーメイド補聴器のスーパーミニカナール（CIC）、カナールエイドの2タイプのみです。

●リオネットウィズ

2010年8月に、補聴器で音のコントラストを調整し、自動的に聞き取りやすい音に加工する当社の独自技術「SSS（サウンド・スペクトル・シェイピング）機能」等、上位機種の数々の機能を搭載するとともに、お求めやすい価格設定を実現したオーダーメイド補聴器（CIC、カナールエイド）及び耳かけ型補聴器を発売しました。
これらに使用している部品は、環境に対する配慮として、設計・生産工程にて完全グリーン化を実現しています。

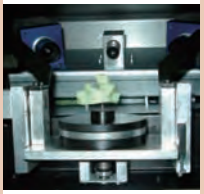
「世界でひとつ」を作り上げるリオネット夢耳（ゆめじ）工房

RIONETWITH リオネットウィズ

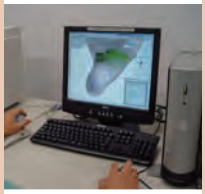
リオネット夢耳工房は、人それぞれに異なる耳型の形状をレーザーで三次元測定し、そのデータに基づいてオーダーメイド補聴器CAD/CAM生産する先進のシステム。高い精度と安定した品質、そして優れた装用感を実現しています。

●それぞれに異なるシェル内のスペースを、シミュレーションを基にした効率的な補聴器ユニットの配列が可能になりました。
●高精度三次元測定で安定した精度が実現。耳への適合性が向上し、ハウリング（ピーピー音）が起こりにくくなりました。
●耳型形状が電子保存されますので、補聴器の紛失や将来買換えをする際にも、データをお役立ていただけます。

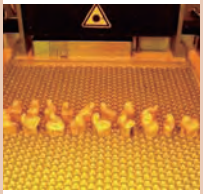
まずリオネットのお店で正確な耳型を採取します。



採取した耳型を独自のスキャニングアルゴリズムでレーザー走査し、忠実に三次元データ化します。



独自のトリミングアルゴリズムで、最適なレイアウト設計と形状定義を行います。



最適化設計されたシェルデータは、光造形装置で紫外線レーザーを用い立体的に造形されます。

軽く、薄く、強度も優れたシェルに最適チューニングされたアンプ等の内部部品が組み込まれ、補聴器になります。

聞こえの性能をはじめ、表面の仕上げ等、細部にわたって品質を検査し、リオネットのお店に届けられます。

医用検査機器 MEDICAL EQUIPMENT

当社の医用検査機器は、耳鼻咽喉科を中心とした病院や医院等の医療現場や、診断用として企業や学校等様々な場面で活用されており、用途や使用される環境等によって機器に求められる性能は様々です。医用検査機器では当社のグリーン調達ガイドラインに基づき、有害化学物質を使用しないための調査を推進すると共に、2010年3月に発売された乳幼児の聴力障害を早期発見する他覚的聴力検査装置OAEスクリーナーER-60は以下のような環境に配慮した設計を行いました。

●分解容易性及び廃棄分別への配慮

従来製品よりも内部構造を単純化することにより、分解容易性の向上及び廃棄分別がしやすくなりました。

手に収まるハンディタイプ

OAEスクリーナー
ER-60

音響・振動計測器 SOUND & VIBRATION METER

精密騒音計NL-52、普通騒音計NL-42は、音響振動計測器の主力製品であり9年ぶりにモデルチェンジをしました。「計測の信頼性追求」を製品コンセプトとして掲げ、最新の機能・性能を搭載しつつ、さまざまな顧客要求仕様に柔軟に対応するプラットフォーム型として開発し世界に拡販するハンディタイプです。
計量法、JIS、IEC、ANSIなどさまざまな国内・国際規格に適合すると共に、プリアンプの新規開発、レベルレンジ切替えを必要としないダイナミックレンジ（113dB）、メモリカードへの保存データ大容量化、周波数分析や波形収録機能の拡張オプションプログラムへの対応、3インチカラー液晶の搭載、日本語メニュー表示も含め徹底した操作性向上を追及しました。
また、環境への配慮にこだわり、以下を実現しています。

精密騒音計
NL-52

普通騒音計
NL-42

●省電力設計

電源回路の高効率化、回路設計や部品選定等あらゆる角度から消費電流の低減に取り組みました。使用するACアダプタは、EU（欧州連合）のErP規制に対応しています。

●充電式の電池に対応

市販の充電式電池（ニッケル・水素電池）使用に対応した電池電圧管理機能を設け、指定の充電式電池にも対応しました。充電式電池対応により、マンガン・アルカリ乾電池等の使用済み乾電池の廃棄量低減に貢献します。

●防水性能IPX3対応

屋外計測時の突然の降雨に対し、機器の故障防止・計測データの確保を目的として、防水性能IPX3に対応（マイクロホン部を除く）しました。なお、新規開発の屋外用ウインドスクリーンの使用により、マイクロホン部も含めた防水性能（IPX3）が確保されます。

●グリーン化設計

当社のグリーン調達ガイドラインに基づき、全ての構成部品に対して有害物質（15種類の禁止物質）の調査確認を実施し、有害物質を含まない環境にやさしい設計をしています。

●分解容易性

プリント基板、ABS樹脂、液晶部、信号入力部等、部分ごとに分解しやすい構造設計を行い、廃棄量低減に貢献します。

●筐体の堅牢性

部分的に筐体部の厚みを従来機種から約25%増やしたことにより、落下等の不意な衝撃への耐久性能や防水性能に対する安定性が向上しました。

●電磁環境性能の達成

筐体のシールド性能強化、プリント板の放射ノイズ低減設計を行い、放射電磁界エミッション、無線放射電磁界イミュニティ等さまざまな最新規格に適合します。

微粒子計測器 PARTICLE COUNTER

精密電子工業において、薬液は洗浄をはじめとして酸化膜の除去やフォトレジストの剥離等に使用されます。特に、半導体、ハードディスク（HDD）及びフラットパネルディスプレイ（FPD）の製造に代表される分野では、純水や薬液を多く使用します。
このような電子デバイスの微細化・高集積化により液体中の微粒子管理は、品質や歩留りの向上のため欠かせないものとなっています。

液中パーティクルセンサ KS-18F

●計数効率を従来機種の10倍に向上

計数効率とは、微粒子計のセンサに導入する試料液の量に対して、実際に測定する試料液の量の割合です。従来機種の計数効率は1%であり、実際に1mLの量を測定するには100mLをセンサに導入する必要がありました。液中パーティクルセンサKS-18Fの計数効率は10%であり、実際に1mLの量を測定するためにセンサに導入する量は従来機種の1/10の10mLで済みます。

半導体工場ではセンサから排出された試料液は廃液として処理されます。
液中パーティクルセンサKS-18Fはこの貴重な薬液の測定において、測定せずに廃液とされる無駄を従来機種の1/10と大幅に削減しました。

社会に対する取り組み

Match to society

ＣＳ活動

当社グループ共通の理念「お客さまが必要とされるものを提供し、お客さまの期待に応え、さらにそれを上回る価値を提供することでお客さまに喜ばれ、その結果としてお客さまに選ばれ続けることこそ、信頼を得て発展し続ける企業グループであること」を命題に、経営者をはじめ全従業員に至るまで、【常にお客さまを企業活動の中心に置く】ことを最優先事項に、お客さまからの信頼の確立を目指して、リオングループＣＳスローガンを掲げ活動しています。

リオングループ CSスローガン

「ありがとう」といわれる仕事が誇りです！

お客さまからの、感謝の言葉が私達の活力です

当社グループに属する全従業員は、最終ユーザーや販売店をはじめとするすべてのお客さまから、**「ありがとう」**といわれる仕事をしていきます。そして、自信を持ったサービスの提供を通して、お客さまの喜びが私達の喜びであることを誇りとして、前進していきます。

安全衛生の活動

総括安全管理者のもとに、安全管理者、衛生管理者、防火管理者、更には産業医を含む各職場からの代表で構成される安全衛生委員会では、年度毎に安全衛生管理計画を策定し以下の活動を行っています。

● 普通救命講習会の実施

AEDの使用法を含めた救命講習会を実施しています。

2006年		2007年		2008年	2009年
6月	11月	6月	11月	7月	7月
25名	35名	43名	17名	41名	37名

● 心の健康づくりへの対策

新入社員に対するメンタルヘルス教育、管理職向けメンタルヘルス研修を毎年実施、外部機関によるメンタルサポートシステムを法人契約し、従業員の家族も含めたメンタルヘルスケアへ取り組みも積極的に行っています。

● 各種法定検診の実施

● 安全運転教育の実施（年2回）

● 春、秋の全国交通安全運動

● 春、秋の火災予防運動

● 全国安全週間

● 全国労働衛生週間

● 年末年始無災害運動

● 防災教育の実施

秋には消防署の協力のもと、自衛消防訓練を実施しています。

また、自衛消防隊は日頃の訓練により2010年国分寺消防署自衛消防訓練審査会では準優勝の成績を修めました。

プロボディーボーダーYUMIEさん×RION

Interview
インタビュー

YUMIE さん

（本名　堀由美恵さん）
1973年10月4日、東京都大田区にて誕生。
2歳の時に進行性の感音難聴にかかり、両耳の聴力をほとんど失う。3歳で初めてリオネット補聴器を使用。18歳の時にボディーボードと出会い、28歳でJOB※1プロテストに合格。
2006年の世界ツアーでは、1年目にして日本人最高位という快挙を成し遂げた。
同年、リオン（株）とスポンサー契約を結ぶ。
2009年にメンタルトレーナー資格を取得。同年7月WDSA※2ハワイ準優勝を後に引退。現在もボディーボードインストラクターとして、また講演活動など多方面で活躍中。主な出演番組にTBS系列「情熱大陸」（2007年2月18日）、著書には『虹を見上げて』（サンクチュアリ出版）、『聴こえなくても私は負けない』（角川書店）など。
※1 JOB:日本のプロボディーボーダーの組織
※2 WDSA:聴覚障害者の男女混合世界選手権

リオンとの出会いは

2歳の時に病院へ行ったら、「両方の聴覚がなくなっています」と言われて、リオネット補聴器を紹介していただいたことからです。3歳の時に初めてリオネット補聴器を使用しました。今では35年間の愛用になります。欠かせない大事なものです。

20歳の時に人工内耳手術を受けなかったこと後悔していませんか?

全くしていません。逆に人工内耳の手術を受けなかったからこそ、今の人生があるようにも思えるからです。それに、あの時、お医者様に「あと5年もしたら進行性の難聴だから聴力を失うだろう。でも人工内耳の手術をすれば、聴力を取り戻すことが出来る。しかし激しいスポーツは駄目かもしれない。」と言われて、ボディーボードをやめて手術を受けていたら今こうしてインタビューは受けていなかったと思います。まさに、私の「耳」が人生を分けたと言っても過言ではないと思います。手術を受けないと決めて、「今のままの私では駄目だ」と思う自分自身としっかり向き合えたこともまた大きなチャンスだったと思うのです。だから、むしろ、手術を受けなかったことで、今の私が生まれたので逆に後悔どころかとても感謝をしています。

YUMIEさんの発音の良さは、どのようにして取得されたのですか?

様々な環境によってだと思います。まずは家族の協力で、母親や姉が話すきっかけをくれました。私の発音がおかしかったらその場で繰り返し口から発することで直させてくれました。または、「聞こえの教室」で、大好きな本を読んでの感想文を書いた後に、それを私に読ませました。そして積極的に話す私に、発音が悪ければ、直してくれました。それは、嫌々ではなく、楽しみながらと言うのもあったと思います。

あとは健常者の学校に行ったことが大きいと思います。やはり周りは耳が聞こえる友達なので、正しい発音がいつでもあるわけですよね。友達にしても私の発音がおかしければ「由美恵ちゃん、この言葉はね、こうだよ」と指で音の高さ、低さを表しながら教えてくれました。それは今でも継続中です。今になって新たに発音を見直してもいます。

高出力の補聴器のおかげで新しい音や、発音の音程に気づくこともあって、恥ずかしいよりも「そういう言い方だったんだ」と改めて見直しています。

プロボディーボーダーYUMIEさん×RION

ボディーボードを始めたきっかけについて教えてください。

18歳の時に友人に誘われました。当時はサーフィンがメジャーになっていたのですが、私はまだまだ定着していなかったボディーボードに、興味を持ちました。あっという間にその魅力にハマった私は、専門学校の3年間、そして卒業してからも住み込みのアルバイトをしながら練習に明け暮れました。

2006年の世界ツアーでは、1年目にして日本人最高位という快挙を成し遂げたときの気持ちを教えてください。

あの時はデッドヒートだったのです。
4人いる選手の中に、ワールドチャンピオンと、日本のチャンピオンが一緒にいたのですが、次のラウンドに行くには2人しか上がれないのです。

オーストラリア遠征は、初めて働いていた会社の社長が「遠征費を出すから頑張っておいで」と言ってくれたことや、母親がやけどを負って、入院していた時など全てが重なって、大きな想いを背負っていたんです。でも周りからのプレッシャーよりも「せっかくこんなチャンスを貰ったのだから、どうせ負けるなら思い切り楽しんでやろう。」そう思った結果がこれでした。

会場のギャラリーが「由美恵ちゃん勝ったよ!いいライディングだったもん!」だとか、アナウンスで流れたときに周りの声で「やったね!!由美恵ちゃん凄い!!!!」やカメラマンのシャッターで「こっち向いて!」など言うので、もしかしたら勝ったのか!?でも凄く楽しかった!と思っていました。あの結果は遠征費を出してくれた社長の想いや、母親への想い、自分自身がやってきたことが結果になり、また自分自身を強くもつことで出たものだと思っています。また大きく学んだ時期でもありました。

YUMIEさんにとって海はどんな存在ですか?

「母なる海」ですね。何より海からのメッセージはとても多く、私が、私でいられる場所なのです。海と向かい合ったときに、まずまっすぐでなければいけない、そしてウソはつけない。
だからこそ、雑念をなくした私でいたい。そして「対話」をします。"海対私"の。気分が嫌な時は大抵私に問題があったりします。そんな時は海に入って対話している間に「今度ちゃんと話し合おう」と思えたり、海に入って美しい夕暮れ時に会うと誰かを思い出し、感謝の心が生まれます。そこには「聞こえない」とか「聞こえる」とかは関係なしに、一人の人間として、居られる場所でもあるからです。

まだまだ海に教えられることや、怒られることはいっぱいありますよ(笑)

そんな私の「母なる海」への感謝の気持ちとして、まず私自身がスクールで海の素晴らしさを伝えること。スクールや、イベント、講演を通して皆さんに伝えていきたいです。そして海には沢山のスポーツがあります。

ボディーボードだけじゃなく、サーフィン、ロングボード、スタンドアップボード、競泳や、ダイビング、あらゆるものに挑戦していきたい。そして毎年挑戦している「パイプライン」
ここでの挑戦はずっと続けていきたいと思います。

YUMIEさんが行われているエコ活動について教えてください。

エコ活動と言うものは、続けないと意味がないと思っています。なので続けられること、海岸でのごみを拾うこと。海には毎回ゴミが限りなく打ち上げられてきます。拾い続けること。
そして少しでも、その活動を多くの人に行ってもらうために自分自身のスクールで生徒さんにも一緒に拾ってもらっています。意外と楽しいんですよ。ゴミ袋がいっぱいになって、綺麗になった海岸を見ると、嬉しくなります。また海辺にいるサーファーもそんな私達を見かけて、一緒に協力をしてくれたりすることもあります。

一人自身で、拾うのではなく、広めながらやっていくこと。
これが私のエコ活動だと思っています。

YUMIEさんの好きな言葉を教えてください。

「Dream in your hand」あなたの夢はあなたの手の中に。これは私の姉が私にくれた大切な言葉です。私が辛い時、実は姉も英語を勉強しにオーストラリアに一人で行った時のことです。お互いに夢に向かって、辛い時だったのでしょう。私が弱音を吐いたときに、姉がメールでくれた言葉なのです。「由美恵ちゃん、夢はね、由美恵ちゃんの手の中にあるんだよ。だからしっかり握っていてね。諦めたら終わり。握っているうちはずっと夢はすぐ近くにあるんだよ。頑張ろう。」と。今でもその言葉を胸に頑張っています。

戦歴

1994年	東京一区3位
1998年	千葉東支部予選6位
2000年	パリOMツアーガルーダカップ4位
2001年	GOB富士子メモリアルターチーカップ9位
2003年	JOBプロテスト合格
	JOBプロランキング35位
2004年	AWBパイプラインコンテストクウォーターファイナル進出
	JOBプロランキング26位
2005年	世界初のWDSAオーストラリア大会にて優勝
	JOB第一戦田原カップ9位
	JOBプロランキング17位
2006年	T & C surf women's pipeline pro 9位入賞
	オーストラリアINGLESPRO9位入賞(日本人最高位)
2007年	ハワイパイプライン最終戦17位
	most インスパイレーション賞受賞
	IBA(世界)ランキング13位　トップシード
	Cholos Women's pipeline Pro 5位
2008年	ハワイパイプラインプロWBA17位
2009年	ハワイパイプラインプロIBA17位
同年7月	WDSA 準優勝にて引退

※注　WDSA → 聴覚障害者の男女混合世界選手権
JOB →日本のプロボディーボーダーの組織
AWB → 女性のための世界のボディーボーダーの組織
GOB(IBAに変更)→ ワールドツアーを運営しているボディーボーダーの組織

会社概要

リオン株式会社

http://www.rion.co.jp

当社は、物理学・音響学の研究を目的とする財団法人小林理学研究所の研究成果を製品化するために1944年（昭和19年）に設立されました。それ以来、一貫して「音響学は人生の安全と慰安に奉仕する学問である」を経営哲学とし技術立社を貫いてまいりました。

その中に脈々と流れている経営思想「社会に奉仕し、世の中の人々が生活していく上で、安心と福祉のために役立つことができれば」と念じつつ、製品開発を行っております。

医療機器事業部は、“補聴器”や難聴者のための“聴能設備機器”、主に耳鼻咽喉科領域で使われる“医用検査器機”を扱います。

環境機器事業部は、音や振動に関する測定器や地震計等の“音響・振動計測器”、気体や液体の中に浮遊する微粒子を測定する“微粒子計測器”を扱います。

音響を中心にした多岐にわたる当社の製品は、個人から諸官公庁、学校、病院、サービス業、農林水産業、あらゆる製造業等広い分野で使用され、国内はもとより世界60数カ国へ輸出され高い評価をいただいております。

本　　社	〒185-8533 東京都国分寺市東元町3丁目20番41号
代　　表	代表取締役社長　井上 清恆
創　　立	1944年（昭和19年）6月21日
資　本　金	12億8,497万円（平成22年3月期・連結）
事 業 内 容	以下の製品及びその製品の製作販売ならびに修理 **リオネット補聴器・関連機器** デジタル補聴器、オーダーメイド補聴器、 耳かけ型補聴器、ポケット型補聴器、聴能設備機器、 生活関連機器 **医用検査機器** オージオメータ、インピーダンスオージオメータ、 電子カルテ関連システム、誘発反応検査装置、 耳音響放射検査装置、眼振計、耳管機能検査装置、 電気味覚計、振動感覚計、聴力検査室 **音響・振動計測器** 騒音計、振動計、設備診断機器、 周波数分析器、記録計、地震計 **微粒子計測器** 気中パーティクルカウンタ、 液中パーティクルカウンタ、 ガス用パーティクルカウンタ、 多点モニタリングシステム
事業所営業所	リオネットセンター、 国分寺補聴相談室、新宿補聴相談室、大阪補聴相談室、 仙台営業所、東京営業所、東海営業所、西日本営業所
海外駐在事務所	欧州、中国
リオングループ	リオン金属工業株式会社、九州リオン株式会社、 関東リオン株式会社、リオンサービスセンター株式会社、 リオンテクノ株式会社、リオン計測器販売株式会社、 東海リオン株式会社、東京リオネット販売株式会社、 理音電子工業股份有限公司

当社は顧客ニーズに合った製品を供給し、業界のトップメーカーとしてその地位を維持していくと共に、全世界に目を向け、豊かな21世紀を展望しつつ、「リオンはすべての行動を通して、人へ、社会へ、世界へ貢献する」との企業理念のもとに健康福祉の増進と安全な生活、快適な環境創りを目指してまいります。